

喜多・今福地域実質化された京力農場プラン

市町村名	地域名 (該当集落名)	当初作成年月	更新年月
宮津市	上宮津 喜多8区～今福14区	令和5年3月	—

1 対象地区の現状

a 地区内の耕地面積	48.70 ha
b アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	25.09 ha
c 地区内における <u>80歳以上</u> の農業者の耕作面積の合計	5.00 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	2.05 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.07 ha
d 地区内において今後中核的担い手が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.70 ha
e 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
(備考)	
dは、5年以内に引受意向のある面積	

2 対象地区の課題

課題

当地区は、大江山山麓から市街地に接し、京都縦貫自動車道IC付近から大江山に向けた南部地域に位置した平野等に約50haの農地が広がっている。集落は3つのエリアで環境が異なる。喜多8区～11区は平野部で大手川から喜多駅までの間の南北に広がる農地であるが、農家の平均年齢も75歳を超え、今後の営農継続に耕作者・土地持非農家も心配される状況にある。

喜多12区は山間部及び大手川西側や荒木野田んぼと呼称されるほ場整備された農地で営農されているが、耕作者10名で平均年齢は75歳であり、集落営農の面積拡大も限度があり、今後の営農に不安がある。線路付近から西側にある今福集落は、不成形な中山間農地を抱えているが平成11年に設立した今福営農組合が荒木野田んぼで農地を約6.2ha集積し、水稻栽培を行っているが、高齢化に伴い後継者不足が課題となっている。

当地域は、水稻以外にも野菜やストックなどの花き栽培が盛んな時期もあったが、現在は生産者も減少し、将来の農地利用の在り方について、ほ場の再整備や国の補助制度の活用を含め集落全体で検討していく必要がある。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中核的担い手を中心に農地集約による農地利用の効率化を進める。